

第 9 回「野菜政策に関する研究会」議事概要

1 日 時

平成 17 年 3 月 18 日（金）16:00～17:00

2 場 所

農林水産省共用会議室（A・B）

3 出席者

【研究会委員】別添のとおり。（石黒委員、上田委員、神田委員、梅津委員は欠席）
【事務局】染大臣官房審議官（生産局）、竹森野菜課長、近藤流通加工対策室長、大澤野菜需給調整官 他

4 議事概要

野菜課長から「最終報告書（案）」等について説明。以下の意見交換。

【木田委員】

- ・ 報告書としてはこれでよいと思う。ただ、報告書は基本的方向を示しているものであり、これをいかに実行するかが重要。
- ・ 補助制度も変化しているが、特に直轄補助の事業を用いてモデル的な取組を進めてほしい。

【森澤委員】

- ・ 国産シェアを奪還していく攻めの野菜施策について方向性がきちんと整理されていてよいと思う。
- ・ ここ 2、3 年、消費者の安全や安心への関心が顕著であり、野菜で最先端を行ってほしい。
- ・ 野菜産地の果たす需給調整機能は重要なので、今後、価格安定制度の見直しの検討に当たっても、産地の機能に十分配慮してほしい。

【牧口委員】

- ・ 報告書の内容はよいと思う。これを受けてこれをどのように実行していくのが重要。
- ・ 世の中の変化は加速度的に進んでおり、これへの対応が大切。

【鶴島委員】

- ・ 重要なのは、高品質で安全・安心な野菜をリーズナブルな価格で供給すること。
- ・ 国産の攻めの体制や経営感覚を持った担い手をサポートし、輸入に頼らなくても国産で賄えるよう、国内産地を育成してもらいたい。
- ・ 食育や消費拡大に向けた取組も引き続き重要。

【佐藤委員】

- ・ 今回の報告書は、地理的に限定された「産地」がベースになっており、現時点では

こういう形になるだろう。

- ・ 一方で、将来的には、地理的限定にとらわれない形も重要になるのではないかと考えられ、今後の対応が必要になってくるだろう。

【金子委員】

- ・ 産地、流通業者、加工業者、消費者、この間の連携について、日本の場合は、どうしてもコストが高い。リスクをシステムの中で吸収していく手法が必要。
- ・ 経営の感覚に優れた担い手の育成という点では、自分の作ったものをどこに売るのかという販路と運転資金がポイント。
- ・ 特に短期の運転資金について、何か対応ができないかという点について関心を持っている。

【藤島座長】

- ・ 最終報告書は本日提示した案のような形で取りまとめたい。
- ・ 今後の施策の具体化に当たっては、担い手政策の具体化、非常に変化の激しい時代への対応、という点への留意をお願いしたい。

以上